

2013年(平成25年)4月25日 木曜日

愛媛新聞

松山の企業 300万円寄付  
地雷処理に役立てて



カンボジアで地雷処理を行うNPO法人に寄付金を贈った大塚社長(右)

IT関連のコンピュータシステム(松山市、大塚忠社長)は24日、カンボジアで地雷処理を続けるNPO法人「国際地雷処理・地域復興支援の会」(同市、高山良二理事長)に300万円を贈った。4月上旬、帰国中の高山理事長(65)と市内で面会した大塚社長(65)が寄付を申し入れた。寄付金は主にカンボジア北西部のポンプラ郡での地雷処理に

使われる予定。

県庁で贈呈式があり、大塚社長が「社会貢献の一助になればと思立った。現地での活動に役立ててほしい」と目録を手渡した。高山理事長は「地雷除去が進めば人々が安心して生活し、農作物を収穫できるようになる。今回の寄付を住民に伝える」と話した。同NPO法人の支援で4月から松山東雲女子大に留学中のタン・チェンターさん(19)も同席し「母国と日本の懸け橋になれるように一生懸命勉強する」と語り、直筆の短歌を大塚社長に贈った。

(山岡雄大)